# サクラエビ

主な漁業と漁期

| | |
|---|---|
| 漁法 | 2そう船曳き網 |
| 漁期 | 春漁：3月～6月<br>秋漁：10月～12月 |

## 生　態

### ●分布・大きさ

サクラエビ（学名：*Sergia　lucens*）は駿河湾、相模湾、東京湾、台湾周辺海域に分布します。日本では、駿河湾でのみ漁業が行われています。

体長4cm前後の小型のエビで、昼間は水深200mから350mに生息していますが、夕方から夜にかけて水深20mから60m付近まで上昇します。

夜間、サクラエビが上昇してきたところを漁獲します。

### ●寿命・産卵期

寿命は、15～18か月、産卵期は6～10月です。産卵盛期である6月11日から9月30日までは禁漁期間になっています。卵は約1日でふ化し、幼生を経て、1か月余りで1cm前後の稚エビに、秋には3cm前後の漁獲サイズになります。

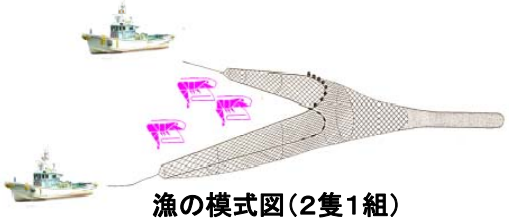
### ●資源管理

サクラエビは漁獲量の増減が大きく、獲りすぎを回避するため資源管理が欠かせません。そのため、許可を得ている60か統、120隻が水揚げ金額を均等に分配するプール制を敷き、過度な漁獲の先取り競争を回避しています。

### ●漁業

漁期は年2回あります。産卵期後の秋漁（10～12月）に行われ、群れを作りにくい1～3月上旬は休みます。再び水温が上昇する3月中旬から産卵期前の6月上旬まで、春漁がおこなわれます。

2隻1組で夕方から出漁し、魚探で群れを探し、水深30～60m付近に上昇したところで網を入れます。エビはフィッシュポンプで網から15kg入りの籠に移され、夜の間に漁港に水揚げされます。



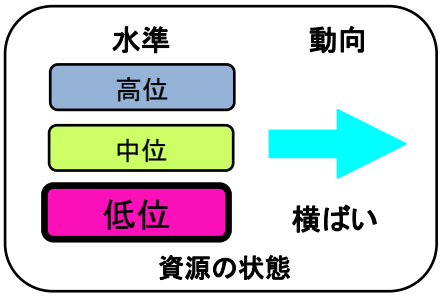
漁の模式図（2隻1組）

**水揚の様子**
1箱15kgの箱に入れ水揚

**水揚げされたサクラエビ**
鮮度維持のため翌朝の入札まで冷蔵庫で保管

## 漁　業　・　資 源 動 向

【資源】

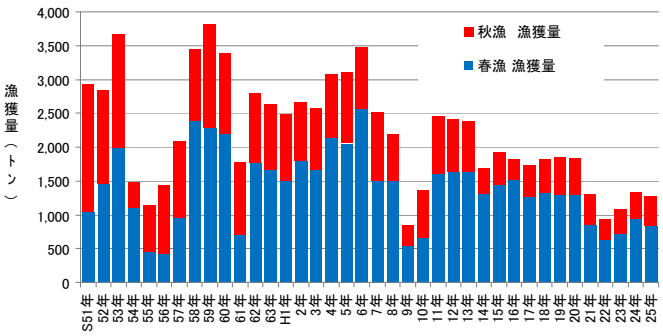



1　平成22年に資源量が減少し、不漁となった。平成25年は平成22年に比べ漁獲量はやや増加したものの、出漁日数も増えており、資源量は低位で、回復していないと判断しています。

2　今後、漁獲量と漁獲圧の状況をみながら、さらなる資源回復措置をはかる必要があります。

【漁業】

1　日本では駿河湾でのみ漁業が行われています。
2　昭和53年の不漁をきっかけに、資源管理を強化し、プール制を実施しています。
3　平成22年度から不漁となり、漁獲量はやや増加したものの、資源量は依然低位で、まだ本格的な資源量の回復はみられていません。




春漁と秋漁の漁獲量の推移

担当者の一言：サクラエビの料理法はいろいろありますが、エビたっぷりの「かき揚げ」が美味しいと思います。


| 問合先 | 静岡県水産技術研究所資源海洋科　054-627-1817 |
|---|---|